評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1474100300
法人名	医療法人社団　洋和会
事業所名	グループホーム小松原
訪問調査日	平成20年3月21日
評価確定日	平成20年4月15日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん　株式会社フィールズ

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営･運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者･職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 3月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	第1474100300号
法人名	医療法人社団 洋和会
事業所名	グループホーム 小松原
所在地	〒228-0002 座間市小松原1-28-14 (電 話) 046-298-3360

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵠沼橋1－2－4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年4月15日

【情報提供票より】(平成 20年 2月 1日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	日付を入力 平成15年3月1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	21人	常勤 13人	非常勤 8人	常勤換算 17.5人

(2) 建物概要

建物構造	(木造)造り
	2 階建ての (1)階 ～ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円		その他の経費(月額)	39,000 円
敷 金	有 150,000 円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 250,000 円		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要 (2月1日 現在)

利用者人数		17 名	男性	2 名	女性 15 名
要介護1		2 名	要介護2		3 名
要介護3		4 名	要介護4		4 名
要介護5		4 名	要支援2		名
年齢	平均	84 歳	最低	71 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 洋和会 相武台メディカルクリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは周囲に溶け込み普通の家を大きくしたようなグループホームです。経営母体の医療法人が24時間対応しています。グループホームとしては要介護度の高い人が多く、大変でありながら明るく看ています。母体の病院にはデイリーで入居者全員の様子をファックスし、日々指示を仰いでいます。お風呂はリフトを備えてあり、要介護度の高い人を週に2回入れています。職員と入居者間で古い写真機や飯ごう、削りぶし器を中に昔話に花を咲かせる機会を持ち、昔はカメラのレンズにさかさまに写った、月見団子の作り方など自然な形で教えてもらったり、回想したりしてます。施設長、管理者、職員、入居者の和がとれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)** 前回の評価結果を、管理者が職員にミーティング時に発表し、改善点を確認しあいました。改善点である、緊急時の対応については職員が講習会に出席したり、緊急訓練についてのポスターを集めて、職員間の意識を高めました。災害時への対応も含めて、防災訓練、地震を想定しての訓練も月に1度行い、地域の防災訓練にも参加しています。 **今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)** 管理者はミーティングで職員に自己評価・外部評価の意義を発表し、項目ごとに職員から聞き取り、計画作成者と共に作成しました。年に1度、外部評価を受けることで、生まれ変わりの機会にしています。自己評価はユニットごとに丁寧に記載されています。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)** 1回目は平成19年12月に開催し、自治会役員、地域包括支援センター、民生委員、家族、職員が集まり、グループホームの役割や運営状況などを説明しました。2回目の開催を進めていますが、自治会の役員の交代時でも有り、また役員は年毎に改選があり、その問題をどうクリアーしたらいいのか行政からの指導も含めて取り組みが期待されます。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)** 家族と職員をつなぐ「連絡ノート」が居室においてあります。入居者の家族でもしばしば見える方と、時々の方がいるので、この連絡帳は家族間の交流・伝達にも役立っています。さらに居室に入居者個々にアルバムが置いてあり、日々の様子がわかるようになっています。職員は、必要な時に電話で連絡していますが、特に手紙などは出していません。家族の来訪が少ない例があるので、今後の課題としています。
重点項目④	**日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)** 散歩は天気の良い日には毎日行っています。お誘いを受けて散歩時に、お庭の花等を見せてもらったりしてます。自治会の老人会の昼食会に参加して地域の人と交じあう機会にしています。年に1回庭でバザーを行い、開催日を広報に載せて、地域交流の場にしています。近くの保育園とはしばしば交流し、園児がホームにきてくれることもあります。卒業時には園児から手つくりプレゼントをもらい、ホームからは雑巾をプレゼントし喜ばれました。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームではホーム全体としての理念と、それを踏まえた各ユニットの職員全員で作ったユニット別の理念がある。全体の理念に「高齢者が地域社会の中で、自立とふれあいを大切に・・・」を掲げ、地域の中で暮らし続けることを明確にした内容となっている。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は毎月開催されるミーティングで、必要に応じ理念について確認し合っている。また、1階、2階入り口近くに掲示し、申し送りノートの表紙裏に添付し、職員の目に触れるようになっている。理念の実践に向けては笑顔と思いやりを基本にしている。		
2．地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、自治会主催の行事(どんど焼き、盆踊りなど）にも参加している。また、小松原神社のお祭りの神輿には、ホームに寄ってもらった。ホーム主催による年に一度のバザーは広報で知らせて、地域の人も参加している。近くの保育園との交流はしばしばある。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はミーティングで職員に自己評価・外部評価について説明し、聞き取りながら、管理者と計画作成者でまとめた。管理者は、昨年の評価結果はミーティング時に発表し、要改善点である「緊急時の対応」については、ポスターを集め掲示したり、職員を講習会に参加させるなどして改善に取組んだ。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一回目は平成19年12月に開催された。家族、自治副会長、民生委員、地域包括支援センター（社会福祉士）など出席した。主として事業所の運営状況、グループホームとしての役割を報告しているが、今後は地域との交流、連携、サービスの質の向上に向けて取り組むことを期待する。	○	継続的（2ヶ月に一回ぐらい）に開催することによって地域との連携や、参加者からの貴重な意見等が得られ、地域や家族等の信頼関係ができます。運営推進会議を開催してサービス向上に活かした取り組みを期待します。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市の虐待ネットワークの委員として活動（2ヶ月に一度）している。行政の担当者も出席しており、行政とは日常的に連絡を取り合い、当ホームの運営実態なども理解してもらっている。運営上の問題点等があれば気軽に話し合える関係ができている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪の少ない人もいるが、利用者の暮らしぶりや健康状態についての説明は、家族の訪問時に行っている。また、居室に連絡ノートを置き（5名のみ）、個別希望が記載されている。部屋にアルバムもあり、家族は日々の様子が把握できる。緊急の場合には電話で連絡している。	○	利用者の家族で来訪の少ない人もいることを考慮し、例えば、毎月送っている請求書などと一緒に暮らしぶりなどを記した便りを定期的に送るなどの検討が期待されます。
8	15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者の意見・要望・不満を入れる意見箱を設置しているが利用はない。家族の訪問時や家族会でホームに対する意見・要望等を聞いている。その中で、年間行事の日程だけでなく日時を決めて欲しいとの要望に応えた。手紙やＦＡＸでの要望も、返事をだし、解決策は連絡している。		
9	18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同一法人の他のホームへの職員の異動、自己都合などで職員は代わっている。ヘルパーの研修生など慣れないヘルパーに緊張する入居者もいるため、代わる場合には、職員と利用者との相性などを考慮し適材適所に職員を配置している。		
5．人材の育成と支援					
10	19	**○職員を育てる取り組み** 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用の職員には、1ヶ月以内に職場に慣れるようOJTを行っている。県央GH連絡会などが開催する研修に参加し、全職員（パート含む）とも平均年1回の外部研修を受けている。受講者はミーティングで報告している。認知症や若年性アルツハイマーの本を事務所に置き、読むように指導している。		
11	20	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームで形成している県央グループホーム連絡会に参加し、同業者との情報交換、連携などネットワークを構築している。また、この連絡会では現場の職員による相互交流の研修を行い、お互いのサービスの質の向上に取組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	**○馴染みながらのサービス利用** 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者や家族には事前に事業所に来てもらい、説明し、雰囲気に馴染んでもらっている。デイサービスや病院に入院中の人には施設側からの説得も頼んでいる。それに並行しアセスメントを行っている。また、一週間前後のお試し入居制度があり、入居者の約5割の人が利用し、家族や利用者が不安なく入居できるような環境づくりを行っている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は今日の日付と「何の日」を話題に取り上げ、「写真の日」には、昔はカメラを覗くとさかさまに写った、白黒だったなどを手がかりに話を進める。かつおぶし削り、飯ごうなどから話が弾んだり、お月見やお彼岸の行事のお団子、おはぎの作り方などを教えてもらい、学び、支えあいの関係を作っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1年に1回、その人の願いをかなえる日を設けている。お誕生日に足湯に行きたい、ずっと疎遠になっていた友人に会いたい、三味線を聴きに行きたいなど、思いをかなえている。それらの思いや気持ちを管理者や職員に気軽に言える雰囲気がある。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	**○チームでつくる利用者本位の介護計画** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	居宅担当制を設けており、その人たちを中心に、なおかつ全員の意見をミーティングで吸い上げて、介護支援専門員が介護計画書を作成している。家族の意見である「楽しく暮らしてほしい」、「散歩に連れて行って」なども盛り込んだものとなっている。		
16	37	**○現状に即した介護計画の見直し** 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンス時には全員の介護計画を見直している(その結果、現状維持の人もいる)。状態変化のある場合は緊急ミーティングを開いて、介護計画書を作り直している。家族には必ず来てもらって、説明している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	**○事業所の多機能性を活かした支援** 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算を取っている。医療法人である母体の力を借りて、重度の方を看る介護力がある。座位がとれず、ギャッジベッド30度の角度での生活であるが、食事も毎食とれる。ほかの入居者も全員、毎日の様子を病院に送り、指示を受けている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	**○かかりつけ医の受診支援** 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師に看てもらう人がほとんどで、訪問診療を月に2回受けているほか、病院は24時間対応で応じてくれる。要介護度が高い入居者が多いが、何かあると母体の病院の看護師がきてくれる。医療への信頼度が厚く、職員の介護力も高い。		
19	47	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化における対応指針と同意書は全入居者･家族が提出している。看取りの実例はないが、余命宣告を受けている入居者はいる。管理者、職員とも看取りの研修は受けておらず、母体の病院の看護師から研修を受ける予定である。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**					
20	50	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	部屋を見せてもらう際には、その場で断って見せてもらった。職員の申し送りは部屋番号で話す。個人情報の書類は事務所の書棚に入れてある。		
21	52	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きるのが辛くて、もう少し寝たいという人にはそのように対応している。遅食も可としている。散歩やレクレーションも無理強いはしていない。散歩の無理な人は外気浴をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	管理者が家庭的なメニューを作っている。生協のカタログを見ながら入居者に食べたいものを聞いて、メニューに取り込んでいる。朝と昼には果物のデザートをつける。庭で昼食をとったり、外食もときどき楽しむ。公園でバーベキューをするときもある。		
23	57	**○入浴を楽しむことができる支援** 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回入浴する。リフト浴の入居者が3人いるが、体調によってはリフト浴も慎重にと配慮している。2人対応で入れるなど、ホーム側の努力･介護力は大きい。寝たきりの人は清拭をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	**○役割、楽しみごと、気晴らしの支援** 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物が上手な人がいて、保育園児の卒業祝いに雑巾を縫いためている。算数のドリルを家族が来た時に一緒にやり、100点を喜び合っている。階段のモップがけを上から下までしてくれる入居者に、職員は感謝している。金魚のえさやりは、みなさんの大きな楽しみである。		
25	61	**○日常的な外出支援** 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い出しは車で行くが、パン屋には歩いていく。近くの神社や保育園には、しばしば散歩に行く。元気な人はほとんど毎日散歩に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	**○鍵をかけないケアの実践** 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉は蛇腹式で、風で道の半ばまで広がってしまうことがあるため、紐でくくってある。ベランダまで不審者が来たことがあり、門扉は閉めている。玄関の鍵は閉めているが家族の了承を得ている。玄関の中のドアは開けてあり、1階と2階の行き来は自由である。居室の一部は鍵がついている。		
27	71	**○災害対策** 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は月に1度行っている。声かけとホイッスルで地震を想定してテーブルの下にもぐる。ガスの元栓を確認したり、玄関までの集合時間を計ったりしている。消防署との連携訓練は年に1度行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日バイタルは行い、摂食量とともに業務日誌に記載している。水分は特に必要な人は別に記録している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには食卓のほかにソファーがあり、憩いの場になっている。採光もよく、換気も気配りしている。玄関前のスロープには椅子を並べて、外気を浴びて休む場所になっている。トイレは車椅子対応の広いトイレがある。開け閉めは、アコーディオンカーテンでにおいの問題があるが、消臭剤で気配りしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇やお経を書いた紙、写真、鏡、小ダンスなどが持ち込まれ、安住の場になっている。		